

様式1

令和5年度 学校評価表

学校教育目標		自他を尊重し、主体的に学び続ける子どもの育成													
a ミッション		組織的な学校経営を生かした小中連携教育による主体性・表現力の育成				a ビジョン		(1) 児童も教職員も生き生きと活動するあたたかい学校 (2) 環境が整った規律ある落ち着いた学校 「我が校に清あり静あり緑あり」 (3) 家庭・地域から信頼され、共に歩む学校				尾道市立因北小学校			
評価計画						自己評価					学校関係者評価			改善計画	
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
かしこく	自ら学び、いきいきと表現する力を育てる。	主体的な学びを促す知識・技能の習得	「わかった!」「できた!」「やった!」と児童が思う授業づくりや学力補充をする。	国語科・算数科(知技)の単元末テストの正答率80%を上回る児童85%以上、60%を下回る児童10%未満	85% 10%	76% 9%	89% 5%	104 200	A	・国語科では目標値を6学年中5つの学年が上回り、漢字や言葉の力が定着してきたと言える。算数科については学校全体で87%で、目標値を6学年中4つの学年が上回った。 ・7月に割合が低かった学年が向上しており、取組の効果が見られた。	3			○国語科・算数科ともに4学年が上回っていてすばらしいが、下回っている学年の今後の向上も大切なことだと思う。 ○いろいろな取組がいい方向に向いている。継続してほしい。 ○教師と児童の意識差に留意してほしい。時には子供に強く意識づけていくことも必要である。	・単元の中で、個別支援を重点的に行う時間を設けるなど、個の学びを意識した指導の在り方を工夫する。 ・算数科において学校全体で定着率の低い内容(逆思考、わり算の商立て等)を校内で共有化し、指導の在り方を交流する。
		表現力の向上	「かかわる」「表す」「見つめ直す」授業づくりを進める。	国語科の単元末テストの記述式回答(活用)の通過率76%以上もしくは各学年で設定した書き方ができる児童76%以上	76% 	67% 	73% 	96 	B	・目標値76%を上回った学年は3学年で、中学年が大きく向上した。作文の経験が少ない低学年も7月より向上した。児童アンケート調査では全学年目標値80%を上回り、児童の作文に対する苦手意識は減りつるあると考えられる。	3			○低学年から中学年、高学年と成長するスピードがどんどん上がっていくので色々な経験をさせることはいいことだと思う。 ○日々の積み重ねを大切にしてほしい。 ○「見つめ直す」について、全教職員でゴールイメージを含めて意識統一を図ってほしい。	・作文について、どんな書き方ができるようになればよいかを指導者と児童が確認し、児童が自分の書き方を客観視できるようにする。そのために、発達段階を意識した学年の系統性を校内で共有化する。
やさしく	心豊かな人間性を培う。	自己肯定感の向上	学校や学級の中で児童一人一人に役割をもたせ、自己実現できる仕事内容や場を設ける。	自分に対し、肯定的に捉えている児童80%以上	80% 	83% 	85% 	106 	A	・目標値としては達成した。特活や行事の場においての児童の主体性を重視したり、児童の頑張った過程や様子など、基本的自尊感情に目を向けたフィードバックを行ったりした成果だと考えられる。	3			○集団生活の中で、一人一人に役割を持たせるのは大切なことであるので引き続き力を入れて取り組んでもらいたい。色々な役を受け、行うことでいい経験となり、色々な人の気持ちがわかるようになる。 ○特に高学年において変化が見られた。 ○児童アンケートとアセスの調査結果を比較し、クロス集計することでより精度の高い実態把握ができる。	・学校生活の中で、自己肯定感を高めていくことができつつある。 ・地域の声を放送や朝会の場で届けることで、客観的な評価をもとに自分達の行動を振り返り、自信としたり改善のきっかけとしたりする。また、地域の一員としての認識を高める。
		「3つの宝」を通した思いやりの育成	「3つの宝」のよさを実感できる取組を仕組み、フィードバックや評価を行うことで、思いやりの心を育む。	「3つの宝」が実践できる児童90%以上	90% 	93% 	93% 	103 	A	・目標値は達成した。委員会や教師側が肯定的声かけを継続的に行ったことで、3つの宝が児童の生活の中に位置付いてきている。	3			○「3つの宝」は因北小学校の大切な宝である。取り組みを継続してほしい。 ○引き続き、より自然にできるよう定着を図って欲しい。 ○学校の伝統文化としての継承をしていってほしい。	・年度が変わるごとに、3つの宝の在り方についてリセットされているような感じがするので、前年度の良さを引き継ぎ伝えながら、より高めたいところを考え、実施していく。 ・家庭と連携してあいさつや履き物揃えを高めていくために頑張りカードなどの各学年の毎日の取組の中に位置づける。
たくましく	目標の実現に向け、粘り強くやり抜く力を育てる。	体力の向上	授業や外遊びを工夫し、児童が目標をもちながら体力づくりを行い体力の向上を図る。	【7月】 ・昨年度の自分の50m走の記録を上回る児童95%以上 【1月】 ・春の自分の50m走の記録を上回る児童95%以上	95% 	92% 	62% 	65 	C	・記録を伸ばせなかった原因として、夏に熱中症対策で体育や外遊びを中止にすることが多く、運動量を確保することができなかったことが考えられる。冬は、走る運動や縄跳び運動に多く取り組み、体力向上をめざしている。	3			○引き続き体力向上を目指して取り組んでほしい。 ○一年を通して、運動量の確保が課題だと思う。特に夏場や長期休業中の取組を工夫してほしい。 ○チャレンジカードをより有効に活用してほしい。目標設定の際に指導者の介入が不可欠である。	・縄跳び運動の期間を伸ばす等の取組を計画し、日頃外遊びをしない傾向の児童も運動できるようにしていく。また、今年度は猛暑のため夏場の運動量確保が難しかった。年間を通して体力づくりに取り組めるよう内容を工夫していく。
		よりよい生活習慣の確立	生活リズム週間を行い、児童が自分の生活習慣を振り返ったり、改善したりして適切な生活習慣を身に付ける。	自分の設定した起床時刻を守って生活することができている児童80%以上	80% 	88% 	93% 	116 	A	・目標を達成し、7月よりも数値を上回ることができた。児童に目標をもたせ、家庭と連携しながら取り組んだことが生活習慣の改善につながった。就寝時刻も見直し、睡眠時間を確保していく方策も検討していく必要がある。	3			○生活習慣の改善は難しいと思うが、家庭と連携し継続して取り組んでほしい。 ○しっかり家庭と連携を取り、低学年の頃から生活習慣を見直せるようにしてほしい。 ○生活習慣について、コミュニティスクールに向けて小中共通の課題として基本方針に取り入れてほしい。	・起床時刻は守れているが、就寝時刻が遅くなってしまい、睡眠時間が少ない児童がいる。「起床時刻・学習開始時刻・就寝時刻」の3点固定を目指した取組を行っている。 ・小中連携を行いながら、さらに組織的に解決できるようにしていく。
選択と集中	働き方改革の推進	児童に向き合う時間の確保	退勤時刻を意識したり、仕事の優先順位を考えたりして、勤務に見通しをもつ。	働きやすい職場にしようとしている教職員80%以上	80% 	100% 	89% 	111 	A	・職員で関わり合おうとする姿が見られ、児童の情報共有がスムーズにできている。退勤時刻を自分で設定することで見通しはもちやすくなったが、行事や成績などで忙しい時期には難しいところもあった。	3			○日々の計画を立て、調整していくことが大切である。 ○教職員が一致団結していると子供達にもいい影響を与えと思う。 ○評価指標の追加や変更を検討しているところは素晴らしい。新たな取組で刺激を受けながら推進していってほしい。	・学年や校務分掌等で職員間の情報共有はできている。さらに学校全体で共有し、めざす姿を共通理解するための機会を設けたり、週予定で周知したりする。 ・年度初めや学期末など繁忙期の児童の下校時刻を見直すなど、児童と向き合う時間を確保できるよう工夫する。

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。